

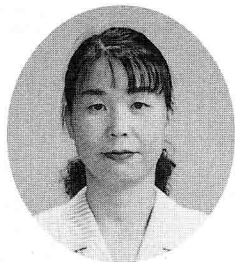
毎日色々な出来事があり、感じる  
こと、考えさせられることも多い。  
例えば、若者の没個性化というこ  
とがずいぶん前から言われている  
ように思うが、生徒たちを見てい  
ると確かに個性を感じることは少  
ない。しかし本当に彼らは全く個  
性がないのか疑問に思う時がある。  
服装は多少の差はあれ、制服を  
着ていなければならない。女子  
はソックスも今や流行から定番へ  
と変わりつつあると思われるルー  
ズソックスで統一……etc.とこ  
ろである。よくよく話をしてみ  
ると、一見同じようにしか見えな  
いあのルーズソックスにもいろい  
ろな工夫が施されているのであ  
る。例えば、夏と冬では素材や糸  
の編み方が違うこと（温度調節の  
ため?）、ポリウレムを出すため  
に二足重ねてはいていること（太  
い方がカワイイ?）、靴のサイズ  
はソックスの分を考慮して選ぶこ  
と（半サイズ大きくないと入らな  
いだらうことは明らか!）。

「個性の尊重」「個性を伸ばす教  
育」と言われているが、なぜ生徒  
たちはもつと堂々と個性を前面に  
出さないのだろうか。横並びの意  
識が彼らの中にも色濃く影響して  
いるのかもしれないが、個性は芯  
の部分で磨かなければ光らないと  
思う。枝葉の部分に気を取られず  
ぎずに、幹がしっかりとしたもの  
になるよう大切にしてもらいた  
い。また、何でも自分勝手に気ま  
まにすることが個性だと間違わな  
いよう、根本的に個性とはどのよ

## 私の宝物

齋藤 洋子

「本日の初任研、よろしくお願  
いします」  
今年度は、この声が一週間のス  
タートの合図となりました。  
初任者研修の指導担当者として  
二人の先生方と共に歩んできたこ  
の一年は、とても実りの多い年で  
した。  
このような中で、自分が初任者  
だった頃のことを思い起こしま  
した。



うなものであるかを知らせること  
も必要である。そのためには我々  
大人も個性について真剣に考えね  
ばならないだろう。  
「子供のすることには必ず必然  
性がある」経験者研修の中で耳に  
した言葉である。そういう目で見  
ると、生徒たちのすることに俄然  
興味がわいてくる。さて、次に彼  
らがどんなことをするか、悩みで  
もあり、楽しみでもある。  
（県立磐城農業高等学校教諭）  
態で臨んでいたようです。  
そんな時、先輩の先生から、  
「先生は若いんだから、そのまま  
の自分で生徒にぶつかるのが一番  
だよ。そして、授業中には笑顔、笑  
顔が大切だ」  
と声をかけていただいたのです。  
その時初めて、生徒の目に映って  
いる自分の姿に気づいたのです。  
緊張感から、知らず知らずのうち  
に、しかつめらしい顔つきになっ  
ていた自分に……。  
指導する側にゆとりがないので  
すから、生徒たちは、きつと窮屈  
な思いをしていたに違いありませ  
ん。私にとって宝物のようなその  
一言が、私の中に自分を見つめる  
「もう一人の自分」を誕生させて  
くれたのです。  
それからは、「もう一人の自分」  
と対話しながら、努めてゆとりを  
持つて、過ごすよう心がけまし  
た。そのことが、自分にとってど  
れだけプラスになったかは、言葉  
で言い尽くすことはできません。  
その後も、節目ごとに助言をい  
ただき、そのおかげで現在の自分  
があるのだとつくづく思います。  
本校に赴任し、若くエネルギー  
シユな二人の先生方は、そのみず  
みずしい感性で様々なことを吸収  
しています。そして、生徒と共に  
歩むその姿に、私のような肩ひじ  
を張った堅さは、見えません。